

## 東海村農業の将来構想イメージのまとめ

東海村農業振興計画策定委員会では、農業振興計画に向けて、昨年度から実施した調査と結果報告を踏まえ、議論を行ってきました。村役場とコンサルタントチームでは、村民へのアンケートの自由回答や委員の皆様からいただいた意見をもとに、東海村農業の将来構想イメージを整理しました。

以下の内容はあくまでも案（たたき台）であり、第4回策定委員会や6月に予定される「ワークショップ」を通じて、村民参加による構想を練り上げます。

### 1. 役場およびコンサルタントチームによる整理

平成27年4～5月に提出いただいた検討委員からの意見を参考に、東海村農業の現状と考えられる東海村農業の方向性を以下のように整理しました。

○第3回検討委員会時に示した報告書（H27.3）は、東海村農業について全般的に網羅しているが、総花的であり、東海村らしい特色が出ていない。将来の東海村農業がイメージできるような概念整理が必要である。

○目指すべき農業のイメージとしては、これまで「循環型農業」が第5次総合計画に謳われてきた。しかし、循環型農業の実現は重要な課題であるものの、村内にはバイオマス資源が乏しく、現実的には対応が難しい面もある。このため、10年後を見越した新たな東海村農業の将来構想イメージを打ち出す必要がある。検討委員の意見を踏まえ、将来構想につながるいくつかのキーワードを抽出することができる。

○水田作を中心に農業経営の大規模化、農地集約は必要であるが、東海村の土地条件では限界がある。大規模化の取り組みだけでなく、小規模経営農家の育成、支援も行い、女性、高齢者、非農家住民を含めた多様な担い手による地産地消型の農業を行うべき。

○東海村は都市化が進んでおり、実質的には都市近郊型農業の特徴をもつ。村内では、畑作地を中心として農地と宅地の混在（混住化）が進み、生産者と非農家住民の間にコンフリクト（摩擦）が生じている。コンフリクトの解消のために、住環境に配慮した環境保全農業を展開する。同時に、非農家住民による農業に対する理解や参加を促進する体制づくりを行う。

○土地利用面では、市街化調整区域を中心に農地の宅地転用が多くみられ、土地利用の混乱が生じている。しかし、マイナスをプラスに転ずるべく、混住化を積極的に評価し、農地を緑のパッチワークとしてとらえることも可能である。そこで、現

在モザイク状に存在する農地や谷津田，里山からなる緑のパッチワークを保全し，農住共存型の土地利用秩序の形成を目指す。

○アンケート結果からは，農業の担い手不足が懸念される。持続的な農業を行うためには，新たな担い手の育成が必要であり，村内外からの新規就農者を受け入れる仕組みを構築する。村内農家の空き家も活用・斡旋し，既存の農家や新たな農業セクター（農業公社など）が指導を担う研修・育成機能（インキュベーター機能）を設ける。

○担い手不足や米の価格低迷などから，村内農地の耕作放棄地増大が懸念される。中でも農業生産面で条件不利な農地の耕作放棄対策が必要となる。このため，老朽化した農業施設（パイプライン，用水路など）の改修を進めるとともに，「多面的機能支払交付金」制度を活用するなど，地域住民の参加による農地保全活動を促進する。地域の農業を村民が支える関係性をつくる（地域支援型農業）。

○直売所では，小規模生産の高齢者や女性農業者の活躍がみられ，多品目の野菜出荷が行われている。村内産の野菜を村内の小売店，飲食店，学校給食，消費者への販売を促進するためには，販売力の強化が必要である。そのために，村内農産物のPR，プロモーション，コーディネート，朝市等のイベントを企画するシンクタンク機能を役場や関係者が協力して構築する。

○村内の特産品は干し芋以外にはない。新たな特産品開発や農業生産軸となる作物の導入が必要である。そのひとつとして飼料作物や高品質米の導入が考えられる。

## 2. 将来構想イメージの案

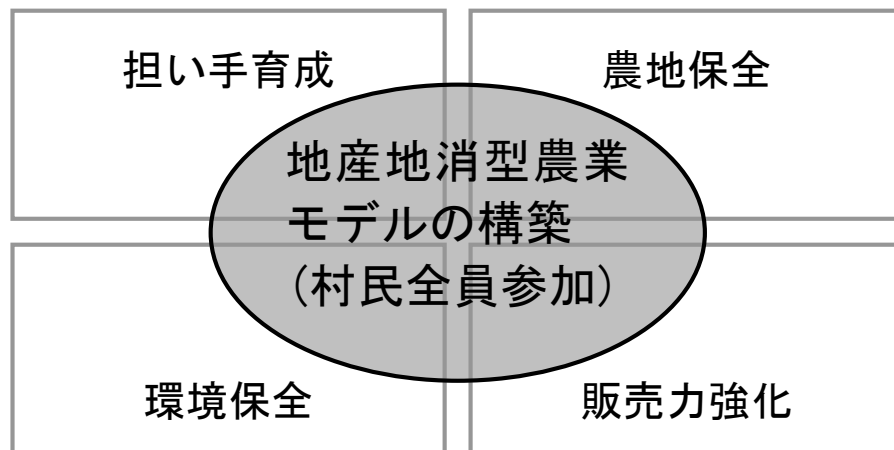
農業振興計画における核心となる東海村の将来構想を表現するキャッチフレーズが必要である。以下は案であるが，今後の検討委員会，ワークショップを通じて将来像を示すキャッチフレーズを募集したい。

（例）

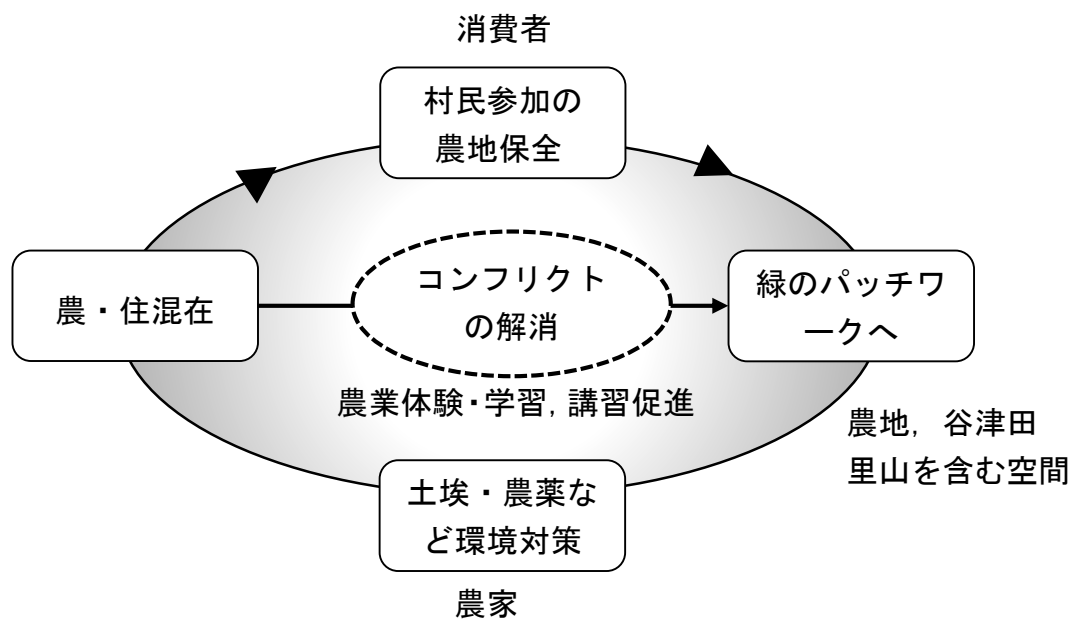
1. ネットワーク・パッチワーク型農業
2. 人と環境にやさしい都市近郊型農業
3. 緑のパッチワークを生かした地産地消型農業
4. 農住近接型の環境保全型農業
5. 村民全員参加型農業
6. 先端技術を活用した持続型農業
7. 地域支援型農業
8. 田園都市型農業
9. 生きがい，交流型農業
10. スモールアグリカルチャー（スモールベースボールは機動力，小技を活用）
11. . . . . .
12. . . . . .

<将来構想の概念図>

1. 東海村農業の大きな柱，構想の方向性

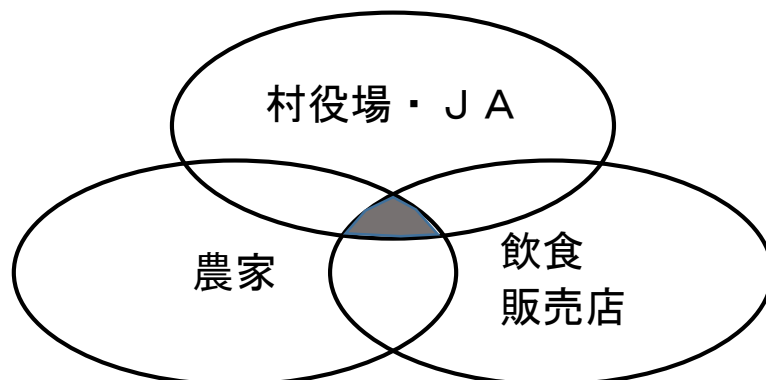


2. 農地保全に向けた方向性（主に畑作地域）



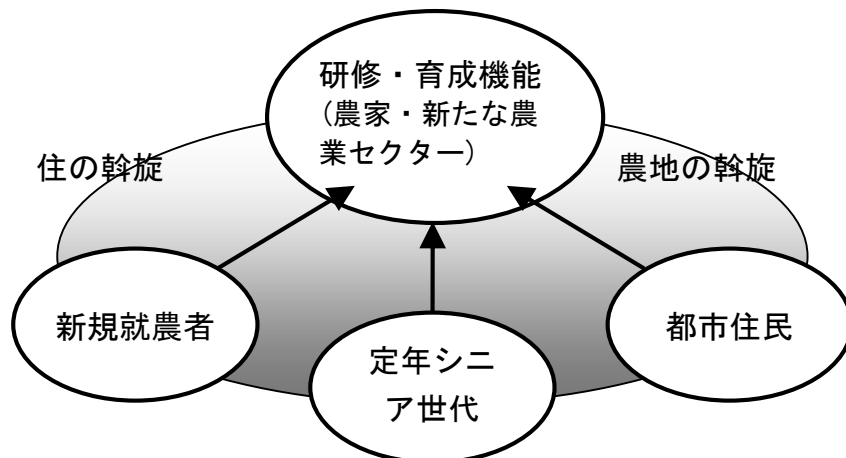
### 3. シンクタンク・コーディネイター機能のイメージ

3者の共通の認識と連携のためのコーディネイター機能  
(村内農産物の販売促進, コーディネイト, イベント企画)



### 4. 担い手育成・インキュベーター機能のイメージ

多様な人材からなる新たな担い手の育成



## 5. 地産地消を実現する販売モデル

